

平成 28 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900166		
法人名	特定非営利活動法人 なごみ		
事業所名	グループホーム ぼらん千厩 シグナレス		
所在地	岩手県一関市千厩町千厩字前田230-1		
自己評価作成日	平成 28年 11月 1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900116-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 28年 11月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して2年になりますが、併設しているシグナル棟と協力して、「入居者が主人公」という考えのもと、毎日安心して過ごして頂けるよう、プライバシーと尊厳を守りながら質の高いサービス提供に努めています。地域との関わり合いも重視し、ボランティアとの交流も大切にしながら、常に開かれた施設であるよう努めています。代表者は職員にあった研修会への参加を促し、各々の目標に向けて向けてキャリア形成、スキルアップの啓発を継続的に行っている。また、育児中の女性職員に対する時間短縮や勤務内容に制限がある職員に対し、様々な条件を受け入れるための職場環境の整備と職員の意欲向上に対する支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺はのどかな住宅街で通りから少し坂道を降りた所にあり、静かで落ち着いた環境にある。開設当初は1ユニットであったが敷地続きに新棟が完成し2ユニットとなって2年目を迎え、両ユニットとも「入居者が主人公」を基本姿勢として、家族のように穏やかに安心して過ごしていただけるよう「笑顔あふれる普通の生活」を目指し、支援に取り組んでいる。特に、日々の暮らしにおける「本人の言葉」をそのままケア記録に残し、その時の様子やエピソード、気付き等を職員間で共有し、利用者の思いに寄り添い本人が望む暮らしを支援していこうとする姿勢と熱意が感じられる。また、自治会に加入し地域交流を図ると共に地元のボランティアを受け入れ交流の輪を広げている。代表者は、頻繁に事業所を訪れ職員とのコミュニケーションを大切に職員育成にも力を入れており、代表者、管理者、職員相互の信頼関係も構築され、今後更に質の高いチームケアの推進が期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ぼらん千厩 (シグナレス)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の理念を事務室内やネームプレートに明示して、常に職員間で共有し、意識しながら実践に努めている。ミーティングの時には、職員全員で唱和している。	介護理念7項目をネームプレートの裏面に明記するとともにその中の一つ「皆で一緒に思いやりのある笑顔あふれる普通の生活」を事務室内に大きく掲示している。月1回のミーティングにおいて理念を唱和し、全職員で共有し日々のケアにおいて具体化していくよう意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶をはじめ、地域の一斉清掃に参加して交流を深めている。地域のボランティアの方に定期的に踊りの慰問にいらして頂いている。	散歩に出かけたときに挨拶を交わしたり、回覧板を手渡す際に話をするなど顔なじみの関係づくりを大切にしており、野菜の差し入れに来られる方もいる。自治会に加入し、年3回ほどではあるが道路の一斉清掃に欠かさず参加している。ボランティアとの交流の輪も徐々に広がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイト養成研修を受講した職員がおり、認知症の人の理解や支援の方法を地域や近隣の方々に伝えられる状態にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催している。ホームでの日常生活の様子や行事への取り組みなどを報告・紹介している。	包括支援センターの職員、地域住民代表、地域のボランティア、民生委員がメンバーとなっており、利用者の出席も得ている。2カ月に1回開催し利用者の状況や事業所の活動状況等を報告し、感染症対策や近隣住民参加による消火訓練の提案等運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、電話連絡するだけでなく、必要時には足を運び、連携を図れるよう努めている。	運営推進会議に出席いただき事業所の状況を伝え情報交換や助言をいただいている。電話や窓口に向いて認定更新や生活保護に関わる相談、報告などを行っているほか、空床情報のシステム運用に当たっては事業所に足を運んでいただくなど協力的体制ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0の手引きを職員が閲覧できるようにしている。転倒の危険性が高い方についてはご家族様と相談し、了承を得たうえで一部ベッド柵を使用させていただいているが監視的対応にならないように気をつけている。	禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し拘束は行わないとの姿勢を徹底するため、事務室内に「身体拘束ゼロへの手引き」を備え付け、いつでも見れるようにしている。ベッド柵の使用についてもミーティングで話し合い家族の理解等に留意しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく、常にご利用者様やご家族様に不快な思いをさせないように、職員一人ひとりが考え、行動している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	姉妹ホームで利用されている成年後見制度や「まもりーぶ」についての情報を収集し、利用者様が必要になった際は支援できるよう備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事前に契約書と重要事項説明書をお渡しした上で改めて説明している。不明な点がある場合はその場で説明し、ご理解いただき、不安なく利用できるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常の会話などから思いや要望を傾聴し、可能な限り実践できるよう努めている。ご家族様の面会時には、要望や思いなどを話しやすい雰囲気づくりに努めている。	家族の来訪時には必ず声を掛け話しやすい雰囲気づくりに努め、遠方の家族には電話やメールで様子を伝え意見を伺うようにしている。利用者の写真、様子を掲載した一人ひとりの「ベストショット」を毎月家族に送り意見をもらえるきっかけ作りに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングには代表者も出席して意見交換の場になっている。日常的な職員の意見や提案に耳を傾け、ユニット丸となってより良いサービスの提供に取り組んでいる。	日頃から職員間のコミュニケーションを大事にし、職員の気づきや提案を運営に取り入れるようにしている。代表者は事業所によく足を運び現場職員と直接話をする機会を作っているほか、月1回のミーティングにも必ず出席して意見、要望等を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境や職員の個々の意欲向上に対し、支援している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も全額補助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員個々の適正に合わせ、外部研修への積極的な参加を促している。職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用も補助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会や市が主催する研修会などへ参加し、他施設との交流を積極的に交わすことでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から要望や不安を把握し、ホームの案内など丁寧に対応することで、利用開始時により安心してサービスを受けられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時からご家族様がどのようなケアを望まれているのか、不安な点なども解消できるよう時間をかけて説明・対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会議後では代表者、管理者、入居窓口担当者が時間をかけて話し合い、必要なサービスの見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ご本人の意思を尊重し、共に心の触れ合える関係を築いている。利用者様一人ひとりが役割を持って生活できるよう、有する能力に応じて声掛けをして、一緒に生活しているということを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や受診報告の際には、日常の様子も含め報告している。また、遠方で来訪できないご家族様にもベストショットやメールを利用して近況報告をすることでつながりを保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からご本人が大切にしてきた知人や近隣の方との交流を促し、関係性が途切れることのないように、再来の声掛けを行っている。行きつけの美容室、自宅近くへのドライブや希望時の電話支援等で関係を維持している。	家族や馴染みの知人、親戚等が来訪され、こちらからは墓参りや行きつけの床屋さん、美容室、雑貨屋さんに出かけている。また、近所のスーパーやボランティアさんの孫たちとの交流等、新たな馴染みの関係が築かれつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの座席は利用者の性格や相性などを考慮し決定している。全員で参加できるレク活動や行事を行い、互いに認め合い、交流できるように環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外でお会いした際には、声をお掛けしてお互いの近況報告を行い、情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で言動や表情から一人ひとりの意向の把握に努めている。記録に記したり、ミーティング等でも職員間で話し合い、気づきの情報共有を図っている。	日常場面で利用者が発した言葉をそのまま生活記録に残している。併せて、その時の表情や周りの様子、職員の気づきも記録し、利用者視点を意識しながらミーティングで検討し、本人の思いを汲み取る支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報やご本人、ご家族様よりお話を聴いて、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、言動や表情の観察により身体・精神状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミーティングで、利用者様のケアについて話し合いを行っている。必要に応じて、主治医やご家族様より意見を伺い、調整しながら、現状に即したケアプランを作成している。	利用者一人ひとりに居室担当を決めモニタリングを行い、本人や家族との日頃の関わりの中で把握した意向を基に計画作成担当者が原案を作成している。定期的見直しのほか、本人の状態変化に応じその都度話し合い見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を生活記録に記入し、ミーティングで話し合い、見直しを行っている。1日2回の申し送りや連絡ノートにより情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方にお住いのご家族様や緊急時は施設にて受診対応している。また利用者様の嗜好を献立に反映できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設にボランティアを受け入れ歌や演奏、踊り等を楽しんでいただくことにより協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様のご要望を重視し受診支援に努めている。また、受診対応を希望されるご家族様には付き添いをお願いしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっているが、入居を機に事業所近くの医療機関に変更したいとの希望にも対応している。受診は必要に応じて家族と一緒に職員もバイタルチェック表を持参して同行し、普段の様子や変化を伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者様の状態を観察し、変化が見られた場合は記録に残し、週1回の訪問診療時に身体の様子や経過を報告し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際には、見舞いに出向くなどしてご家族様や医師、担当看護師との情報交換や相談を行うようにしている。また、退院に向けては職員間で情報交換や留意事項、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、看取りの指針を説明し早い段階からご本人・ご家族様に意向を確認している。入居後もご希望を重視し、かかりつけ医と連携しながら方針を共有し、施設でできることに取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた指針を整備し、事業所として対応可能な支援について入居時に説明している。重度化した場合、他施設への移行を視野に入れて対応を検討することとしているが、2年前に家族等の意向を踏まえ、職員とも話し合いを重ね、訪問看護を利用しながら看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習へ参加している。また、急変や事故発生時に備え、マニュアルで周知し、全体ミーティングで確認、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いのもと避難訓練を年2回実施している。災害発生時に備えて非常食や持ち出し用品の確認を定期的に行っている。	消防署の立会いで避難訓練を年2回実施し、夜間を想定した訓練も行っている。避難経路を階段からスロープに見直し、また繰り返しの訓練で所要時間が徐々に短縮されつつある。消火器使用訓練には近隣住民の参加を得ているほか、飲料水や非常食、介護用品等も準備し、いつでも持ち出せる。	日頃から火災を想定した対策や緊急時に備えた対応に取り組んでいるが、火災以外にも地震、台風、水害等の災害を想定した対策や地域の協力体制についても検討され、万が一の場合に備えた取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉づかいに気をつけ、声掛けをするときには声の大きさや表情にも気をつけている。職員間の申し送りなどはイニシャルで呼ぶなどプライバシーを損ねないように対応している。	利用者の個性を理解しプライドを傷つけないよう、特にトイレ誘導や入浴支援の際の言葉づかいに配慮している。レク活動においてもただけ過ぎた言葉かけにならないよう努めている。また、ミーティング等では利用者の名前はイニシャルで話すことを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも傾聴し、意思疎通が困難な時には選択肢によりご本人の意思を伺うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望があれば、その日の予定に取り入れられるように調整し、希望がかなえられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室ごとに担当者があり、季節や気候に合った衣服を着ていただけるよう衣替えなどの支援している。散髪に関してはご本人様の希望や伸び具合によって訪問床屋に依頼したり、馴染みの美容室に出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プランターで野菜作りを行い、収穫を楽しんでいただき、調理したものを召し上がっていただいた。行事ではケーキの飾りつけを一人ひとり楽しませている。食事前後のテーブル拭きのお手伝いもお願いしている。	希望するメニューを取り入れながら専任の職員が調理しており、おしほりの準備やテーブル拭き、下膳は利用者と一緒に同じテーブルを囲んで食事をしている。おやつ作りも皆さんで行ったり、行事食や外食の機会を設けるなど、楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で栄養バランスを管理し、食事や水分摂取量は総合チェック表に記入し、職員間で共有している。また、利用者様に合った食事形態で提供している。(刻み、分量など)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。ご自身でできる方は、自力で行えるよう声掛けや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの残存機能や状態に考慮しながら、できるだけトイレでの排泄を促している。チェック表を確認しながら間隔が空いた際は、声掛けにて見守り誘導を行っている。	一人ひとりの排泄記録を確認しながら声掛けを行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツや布パンツ、パットの使用については、本人の状態や時間帯に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や咀嚼に配慮している。自然排便を心掛けているが、便秘が続いた際は主治医の指示のもと必要に応じて下剤服用やナースによる浣腸・摘便にて予防対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調やご希望を考慮しながら入浴を楽しんでいただいている。拒否があった場合には、日にち・時間を見合わせて対応し、清潔保持に努めている。	利用者のその日の体調を確認しながら週2回は入浴していただいている。同性職員の入浴支援や湯温調整、入浴剤の使用など本人の希望に沿い、楽しくつろいだ気分で入浴できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じ、活動時間に参加されたり、午睡をとられたり状況に応じて支援している。主治医の指示のもと必要時に眠剤を服用していただく方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書を保管し、職員がいつでも薬について確認できるようにしている。誤飲・誤薬や飲み忘れがないように職員が管理し、服用時は複数の職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様やご家族様の意向を尊重し、日々のお手伝いや趣味の時間、散歩などの外出支援を積極的に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候などに応じ、ご希望に添った外出ができるよう支援をしている。また、受診やお墓参り、遠方のご家族様より外出や外泊の申し出があれば協力しながら出掛けられるよう支援している。	天気の良い日は散歩やプランターでの野菜づくりや花の手入れなど、短時間でも戸外に出られるよう支援している。お花見やリンゴ狩りなどに皆で出かけたり、家族の協力を得ての外泊や墓参りなど、希望に沿った個別の外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全利用者様のお小遣いを出納帳、金庫にて職員が管理している。ご希望・ご要望により、職員と一緒に出掛け、外食・買い物等支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より希望があった時は、その都度電話ができるよう支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品を廊下に展示したり、行事や日々の利用者様のご様子の写真を月ごとに掲示していつでも見られるようにしている。廊下やトイレも広く、車椅子をご利用の方でも安心して生活して頂ける空間となっている。	リビングと台所を囲むように廊下を挟んで各居室があり、どの部屋からもリビングに集まりやすいよう工夫されている。天窗のついた明るく広いリビングに皆さんが集まり、余暇活動やテレビを見たり、会話を楽しんだり、思い思いの場所で自由な時間を過ごしている。廊下には木製のベンチが置かれ、利用者の共同作品の貼り絵が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置したり、玄関付近にも椅子を設置して好みの場所で過ごせるよう配慮している。必要に応じて各利用者様の椅子を移動し、気の合う利用者様同士で過ごせるよう工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご本人の使い慣れたものや馴染みのものを持参していただくように予めお声掛けさせていただいている。ご家族様も入居申し込みの際には、必ず施設内を案内し快適に生活できるようにイメージが持てる配慮をしている。	自宅で使い慣れた家具や布団、CDプレーヤー、時計、本などが持ち込まれ、それぞれ希望する居室づくりに配慮している。各居室には家具調ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットがあり、すっきりと収納されている。誕生日カードが飾られ居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは迷わないように表示している。また浴室内に手すりを設けたり、浴槽内にも滑り止めマットを使用し、安全に配慮している。			